

2016年（平成28年）

6月24日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

6/9～6/15のNYMEX・WTIは、6/8の11ヵ月振りの51ドル台の高値への反動と英国のEU離脱による世界経済の混乱への懸念等から、6/9の50.56ドルから連日値を下げ、6/15には48.01ドルとなった。

6月16日は、6月23日の国民投票を前に英国のEU離脱懸念に加え、前日の連邦公開市場委員会(FOMC)の利上げ見送り、日銀の金融政策決定会合での追加緩和先送りなど、世界経済の先行き不透明感を反映し、6営業日続落となった。7月限の終値は、前日比1.80ドル安の46.21ドルとなった。

週末17日は、英国のEU残留派女性議員殺害によるEU離脱懸念の後退とドル安による原油への割安感から、米国内の石油掘削リグ稼働数の3週連続増加にもかかわらず、買い戻しが入った。7月限は前日比1.77ドル高の47.98ドルで終了した。

週明け20日は、英国のEU残留支持派が離脱支持派を上回ったとの世論調査結果を受けてドル安がさらに進行、原油の割安感とリスク投資意欲の回復、WTI原油の受け渡し点であるクッシングにおける原油在庫減少から続伸した。7月限の終値は、前週末比1.39ドル高の49.37ドルとなった。

21日は、英国のEU離脱懸念など世界経済の先行き不透明感の中、利食い売りが台頭し、3営業日振りに反落した。7月限の終値は、前日比0.52ドル安の48.85ドルだった。

22日は、EIA(米エネルギー情報局)の米国石油週報で原油在庫の減少が市場予想を下回ったことから続落し、この日から中心限月となった8月限の終値は前日比0.72ドル安の49.13ドルとなった。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(8月渡し)は、前週も49～45ドルと値下がり気味で推移した。16日は45.20ドル、17日は44.50ドル、20日は46.20ドル、21日は46.60ドル、22日は47.30ドルと後半はやや値を戻した。

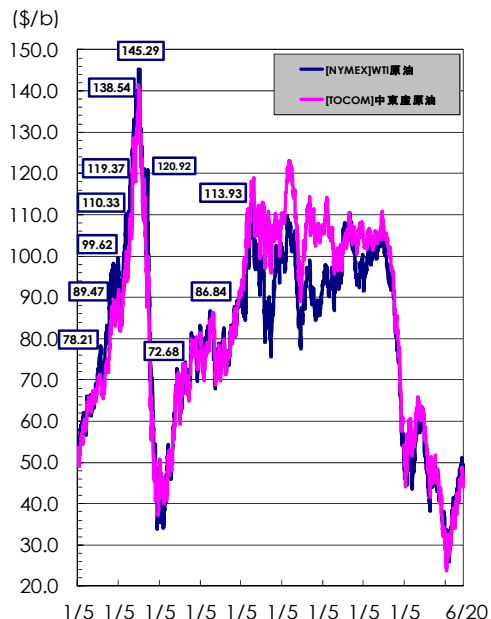
為替は、前週は106～107円台前半と狭い範囲で円高気味に推移した。16日は105.68円、17日は104.73円、20日は104.69円、21日は103.82円、22日は104.58円と円高で推移した。

財務省が20日発表した貿易統計速報(旬間ベース)によると、5月下旬の原油輸入平均CIF価格は、中旬比65円下げの26,006円/kl。ドル建てでは41.01ドルで前旬比0.07ドル安。為替レートは1ドル/108.56円。同日発表した貿易統計速報(月間ベース)によると、5月の原油輸入平均CIF価格は、前月比1,956円上げの27,822円/kl。ドル建てでは40.61ドルで前月比3.65ドル高。為替レートは1ドル/108.92円。

主要元売会社の6月第4週に適用するガソリンと中間留分の卸価格は、多くが引き下げだった。原油は値下がり、為替も円高で、原油コストは値下がりだった。

そのような中で、6月20日時点の小売価格は、ガソリンが0.4円値上がりの124.0円、軽油は0.2円値上がりの103.7円、灯油は0.2円値上がりの64.2円だった。ガソリンは15週連続の値上がり、軽油は6週連続の値上がり、灯油は4週連続の値上がり。この週の原油コストは小幅な値上がり、元売りの卸価格は据え置きだったが、小売価格への転嫁が進んだ。

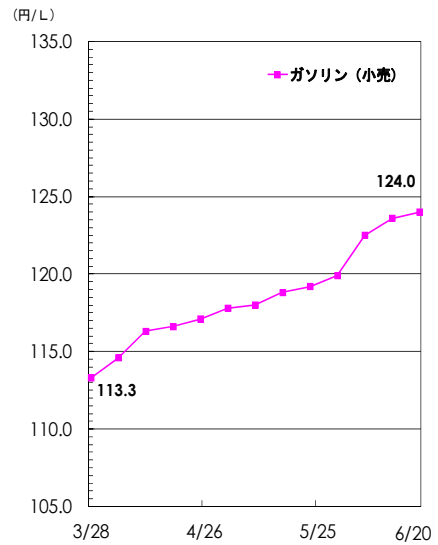
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	6/12～6/18	3,253 ▼ -48	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	76.6 ▼ -1.1	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	6/18	15,724 ▲ 428	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	6/20	45.90 ▲ 0.08	▼ -15.7
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	6/20	49.37 ▲ 0.49	▼ -10.3
	原油CIF単価 (\$/bbl)	5月下旬	41.01 ▼ -0.07	▼ -18.36
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	28,006 ▼ -65	▼ -16,603
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	108.56 ▲ 0.09	▲ 10.90
	外国為替TTSレート (¥/\$)	6/20	105.69 ▲ 1.77	▲ 18.00



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比
需給	生産	6/12 ~ 6/18	971 ▼ -33 ▲ -	
	輸入	"	n.a. n.a. n.a.	
	出荷	"	937 ▲ 4 ▲ -	
	輸出	"	2 ▼ -38 ▼ -	
	在庫	6/18	1,892 ▲ 32 ▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	6/14 ~ 6/20	44.5 ▼ -0.6 ▼ -20.2	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	6/14 ~ 6/20	44.1 ▼ -1.7 ▼ -20.5
		(TOCOM/中部)	6/20	43.5 ▼ -0.5 ▼ -19.9
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/20	124.0 ▲ 0.4 ▼ -20.9	

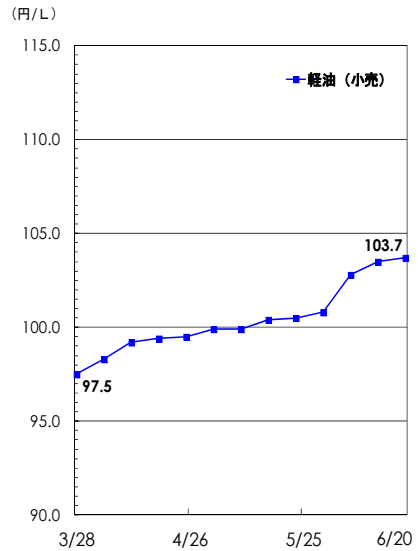
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

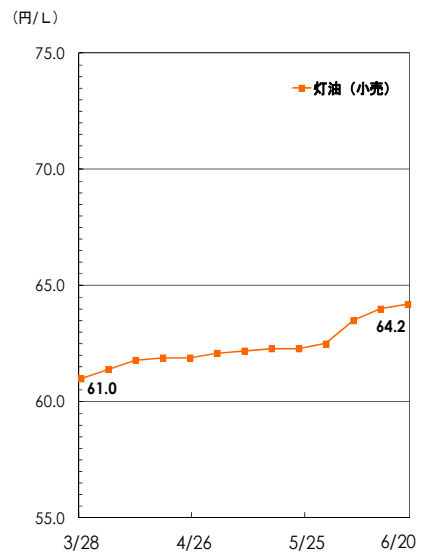
軽油		今週	前週比	前年比
需給	生産	6/12 ~ 6/18	690 ▼ -3 ▼ -	
	輸入	"	n.a. n.a. n.a.	
	出荷	"	648 ▲ 86 ▲ -	
	輸出	"	94 ▲ 16 ▲ -	
	在庫	6/18	1,446 ▼ -52 ▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	6/14 ~ 6/20	41.7 ▼ -0.1 ▼ -17.9	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	6/14 ~ 6/20	40.0 ▼ -1.9 ▼ -20.0
		(TOCOM/中部)	6/20	- - -
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/20	103.7 ▲ 0.2 ▼ -19.5	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比
需給	生産	6/12 ~ 6/18	129 ▲ 8 ▼ -	
	輸入	"	n.a. n.a. n.a.	
	出荷	"	72 ▲ 14 ▲ -	
	輸出	"	0 → 0 → -	
	在庫	6/18	1,732 ▲ 57 ▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	6/14 ~ 6/20	40.8 ▼ -0.6 ▼ -18.3	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	6/14 ~ 6/20	39.8 ▼ -2.0 ▼ -19.3
		(TOCOM/中部)	6/20	39.0 ▼ -1.7 ▼ -18.7
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/20	64.2 ▲ 0.2 ▼ -21.6	



■ 関連情報

1 海外/原油

22日のNYMEX市場のWTI原油は、米国の原油在庫の減少が市場予想を下回ったことから、続落した。

EIAの週間石油統計は、原油在庫が90万バレル減と市場予想(170万バレル減)を下回り、さらにガソリン在庫も市場予想に反し増加した。そのため、前日夕刻の米国石油協会(API)週報の予想を上回る最新週の原油在庫減少を受けて、一時50ドルを上回る水準で推移していた市場は、一転売りが優勢となった。

この日から中心限月となった8月限の終値は、前日比0.72ドル安の1バレル49.13ドル、9月限の終値は、前日比0.67ドル安の1バレル49.78ドルだった。

EIAによると、6月20日時点のガソリンの小売価格は全米平均で前週比4.6セント値下がりの1ガロン2.353ドル(65.6円/ℓ)となった。ディーゼルは0.5セント値下がりの2.426ドル(67.7円/ℓ)。ガソリンは6週振りの値下がり、ディーゼルは11週振りの値下がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、6月12日～18日に休止したトッパー能力は、41.7万バレル/日と先週から1.9万バレル/日の減少。(全処理能力は381.7万バレル/日)。

原油処理量は325.3万kl、前週に比べ4.8万kl減少。前年に対しては20.8万klの増加。トッパー稼働率は76.6%と前週に対して1.1ポイントの減少、前年に対しては6.7ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてジェット、灯油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/3.3%減、ジェット/19.6%増、灯油/6.6%増、軽油/0.4%減、A重油/5.3%減、C重油/10.8%減。今週のC重油の輸入は6.3万kl(前週比1.2万kl増)。軽油の輸出は9.4万kl(前週比1.6万kl増)。

出荷(販売量)は、前週比ではジェット、A重油が減少し、その他の油種で増加した。前年比ではガソリン、灯油、軽油が増加し、その他の油種で減少した。原油価格が一進一退の状況となる中、小売価格は値上がりが続いたが、ガソリンの出荷は93.7万kl(対前週0.4%増)と3週振りに前週比、前年比で増加となったものの、3週連続で100万kl台を下回った。

ジェット1.5万kl(対前週82.5%減)、灯油7.2万kl(対前週23.0%増)、軽油64.8万kl(対前週15.4%増)、A重油16.5万

kl(対前週15.1%減)、C重油30.4万kl(対前週23.1%増)。

(単位:千KL)

	今週 (6/12 ~ 6/18)	前週 (6/5 ~ 6/11)	前週比	
ガソリン	937	933	▲ 4	(0%)
ジェット燃料	15	87	▼ -72	(-83%)
灯油	72	58	▲ 14	(24%)
軽油	648	562	▲ 86	(15%)
A重油	165	195	▼ -30	(-15%)
C重油	304	247	▲ 57	(23%)
合計	2,141	2,082	▲ 59	(3%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

6月18日時点の在庫は軽油、C重油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対しても軽油、C重油が取り崩し、その他の油種で積み増しとなった。

ガソリンは189.2万kl、前週差3.2万kl増。前年に対しては12.6万kl多い。

灯油は173.2万kl、前週差5.7万kl増。前年に対しては13.2万kl多い。

軽油は144.6万kl、前週差5.2万kl減。前年に対しては25.0万kl少ない。

A重油は82.2万kl、前週差0.4万kl増。前年に対しては1.8万kl多い。

C重油は200.3万kl、前週差0.8万kl減。前年に対しては7.3万kl少ない。

(単位:千KL)

	今週 (6/18)	前週 (6/11)	前週比	
ガソリン	1,892	1,860	▲ 32	(2%)
ジェット燃料	1,068	1,030	▲ 38	(4%)
灯油	1,732	1,675	▲ 57	(3%)
軽油	1,446	1,498	▼ -52	(-3%)
A重油	822	818	▲ 4	(0%)
C重油	2,003	2,011	▼ -8	(-0%)
合計	8,963	8,892	▲ 71	(0.8%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

6月14日から6月20日までの原油コストは、原油価格は値下がり、為替レートは円高で、値下がりが見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン97~98円台、軽油41円台、灯油40~41円台で先週に続いてやや軟化した。海上スポット価格は、ガソリン103~106円台、軽油43~44円台、灯油38~40円台で横ばいから軟調、先物価格はガソリン96~97円台、軽油39~40円台、灯油38~40円台で小幅に値下がりました。元売の卸価格は据え置きだったが、原油の値下がりを受けて全般的に軟調に推移した。

EMGマーケティングは23日、25日以降出荷分の陸上外販スポット価格については、全油種据え置き、7月1日以降一律2.0円値上げする旨を通知した。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

製品スポット市況は、海上物を中心に堅調に推移した。週間のガソリン販売量は、3週連続で100万klを若干下回った。

6月第4週(6月23日~6月29日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(6月14日~6月20日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは0.6円、灯油は0.6円、軽油は0.1円の値下がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが0.4円の値上がり、灯油は1.8円、軽油は1.6円の値下がり、先物価格は、ガソリンが1.7円、灯油が2.0円、軽油が1.9円の値下がりだった。スポット製品価格は前週は海上物を中心に堅調だったが、ガソリンを除いては軟化傾向にある。

6月第4週の大手元売の卸価格は、概ね1円程度の引き下げであった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM)		(単位: 円/ℓ)		
[陸上ローリー4地区平均]		今週 (6/14 ~ 6/20)	前週 (6/7 ~ 6/13)	前週比
スポット価格	レギュラー	44.5	45.1	▼ -0.6
	灯油	40.8	41.4	▼ -0.6
	軽油	41.7	41.8	▼ -0.1
(TOCOM)		(単位: 円/ℓ)		
[期近物/終値] [平均]		今週 (6/14 ~ 6/20)	前週 (6/7 ~ 6/13)	前週比
先物価格	レギュラー	44.1	45.8	▼ -1.7
	灯油	39.8	41.8	▼ -2.0
	軽油	40.0	41.9	▼ -1.9

※上記価格は税抜き価格

参考値 (6/14~6/20実績値)		(単位: 円/ℓ)	
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -0.6	▼ -1.7	▼ -1.2
灯油	▼ -0.6	▼ -2.0	▼ -1.3
軽油	▼ -0.1	▼ -1.9	▼ -1.0
A重油	▼ -0.4		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

6月20日時点におけるSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.4円値上がりの124.0円、軽油は0.2円値上がりの103.7円、灯油は0.2円値上がりの64.2円だった。ガソリンは15週連続の値上がり、軽油は6週連続の値上がり、灯油は4週連続の値上がり。ガソリンは、15週で累計12.0円の値上がり。

都道府県別の動向として、ガソリンの値上がりは33都府県、横ばいは2県、値下がり12道県だった。都道府県別のガソリンの全国最安値は、千葉県(前週比0.7円高)の119.8円で、秋田県(同0.3円安)が119.9円で続いている。最高値は沖縄県(同1.8円高)の134.2円だった。都道府県別で最も値

上がりしたのは沖縄県(同1.8円高)で134.2円、最も値下がりしたのは岡山県(同1.3円安)の120.7円だった。

原油コストは値下がり、卸価格も引き下げが多いが、前週までの卸価格の値上がりの小売価格への転嫁も続くと思われる。次週の小売価格は、小幅な値動きが予想される。

(資工庁公表) [週動向]		(単位: 円/ℓ)			
		今週 (6/20)	前週 (6/13)	前週比	直近高値
小売価格	レギュラー	124.0	123.6	▲ 0.4	08/8/4 185.1
	灯油	64.2	64.0	▲ 0.2	08/8/11 132.1
	軽油	103.7	103.5	▲ 0.2	08/8/4 167.4

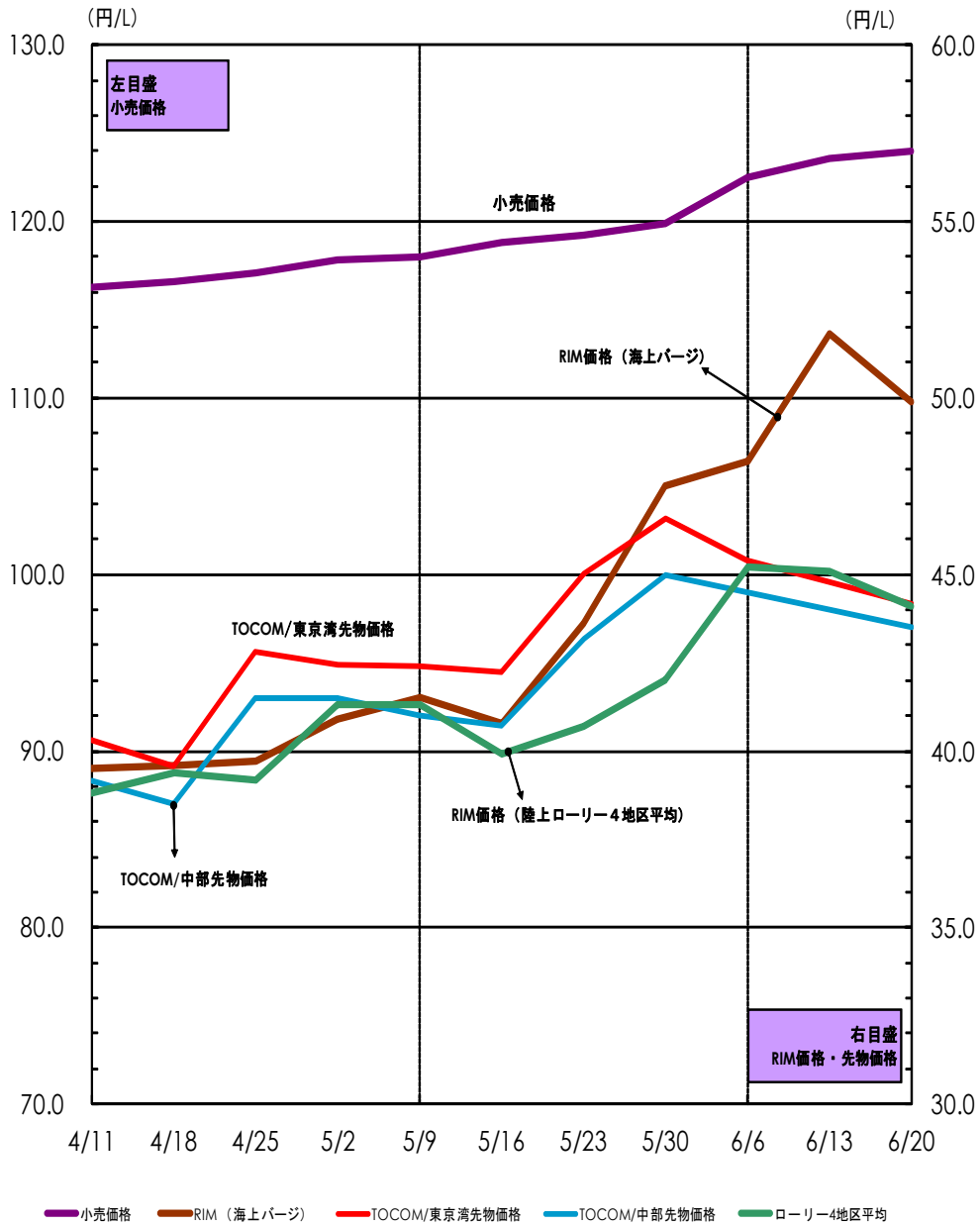
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2016/4/11 ~ 2016/6/20)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2016第13号)の公表は、7/1(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成27年9月末現在)は、12月16日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange: NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange: TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate: 中値)を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。